

## 水難学会情報 13-2

都道府県別生還率について

平成25年7月9日

毎年、警察庁生活安全局地域課から報告される水難の概況（平成24年中においては [http://www.npa.go.jp/safetylife/chiiki28/h24\\_suinan.pdf](http://www.npa.go.jp/safetylife/chiiki28/h24_suinan.pdf) を参照）に、中学生以下の子ども  
の統計と全体の統計が掲載されています。

この統計を利用することで、水難から生還した割合として、生還率を求めることができます。算出式は（1）式に従います。

$$\text{生還率（\%）} = \frac{\text{負傷者（人）} + \text{無事救出者（人）}}{\text{水難者（人）}} \times 100 \quad (1)$$

生還率を良いほうから都道府県ごとでまとめると表1のとおりです。特徴は、もともと水難件数の少ない都道府県と多いそれでは異なります。前者では年間10件未満で、無事救助者が1人でもふればランキングに大きく影響を与えます。その一方で、年間の水難件数が多く、さらに生還する人の数が多い地域もあります。前者はもともと事故を起こさないと気をつけていること、後者は何らかの方策が成功しているということ、すなわち浮いて救助を待つことを市民が理解している地域だと推定されます。

表1 生還率ベスト5

埼玉県	90%	
東京都	79%	
福井県	78%	
群馬県	75%	（ただし、水難者総数は4人）
静岡県	72%	